

小木の子 われら

校区内
全戸回覧

令和3年1月20日発行

できる 使いこなす 極める

校長 齋藤 光夫

ある人気アニメの中で、技を高めていく姿が描かれています。その中で、「できる」こと、「使いこなす」こと、「極める」ことが使い分けられています。

これらの言葉の意味は、普段から使用しており分かっているつもりでしたが、アニメの作者である吾峠（ごとうげ）氏が意味付けされた文章を目にしたとき、このアニメの奥深さを感じるとともに、（学校での学びも同じだな）と、妙に納得してしまいました。

小学校では、2年生の算数で九九を習います。何度も何度も練習し、しっかりと唱えられるようになるまで繰り返します。しかし、この「九九を唱える」ことは、実はゴールではありません。九九が唱えられるようになっても、計算や生活の中で使えなかったら役に立ちません。身に付けた力を使いこなせるようになることが大切なのです。

では、使いこなすとはどういうことなのでしょう。文章題から掛け算の式を立て、答えが出せればよいのでしょうか。これもまだ「できる」段階でしかありません。「使いこなす」とは、それ以後の学年における割り算や複数桁の掛け算を速やかに処理するだけでなく、九九の規則性を見いだす数学的な考え方を基礎として様々な学習に活かすことです。

九九を例に挙げましたが、小学校で学ぶ知識や技能は、それぞれの教科の問題を解くための力ではありません。「学校の勉強は役に立つのか？」と疑問を抱く声を聞くことがあります。確かに、生活の中では、計算は計算機を使えば済むわけですし、漢字の書き取りもワープロが使えます。ネット情報があれば何でも解決できそうな気になります。

私たちがよりよく生きていくには、正しいことを見極め、選択したり、活用したりする力や新しいものを創り出す力が必要です。そのための見方・考え方を鍛えていくのが学校で学ぶ各教科や様々な活動と言えます。一つ一つの「できる」を増やしつつ、それらを「使いこなす」経験を積み重ねることで、生きる力は高まっていくのです。

最後に、「極める」についてです。吾峠氏は、「使いこなしている技を他の誰よりも速く強く、常に最大限の力を出せるよう練り上げることが“極める”ことです。」と記しています。急速に変化する社会を先導できる力にまで「極める」には、今が大切なのです。